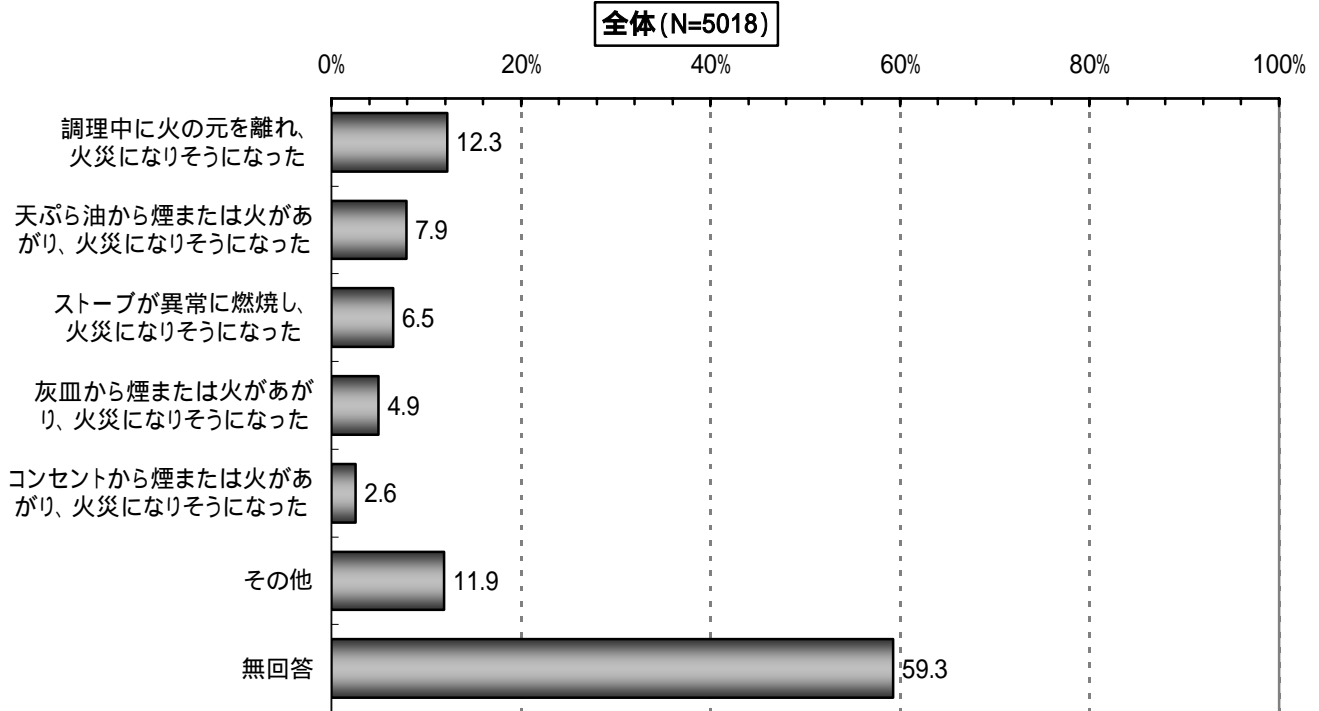


暮らしに潜む火災の危険性と住宅用火災警報器について

火災になりかけた経験

問5 あなたは、危うく火災になりかけ、「ヒヤリ」または「ハッ」とした経験がありますか。あてはまるものはいくつでも をつけてください。

危うく火災になりかけ、「ヒヤリ」または「ハッ」とした経験は、「調理中に火の元から離れ、火災になりそうになった」が1割強。



【対象者全体】危うく火災になりかけ、「ヒヤリ」または「ハッ」とした経験があるかについては、「調理中に火の元から離れ、火災になりそうになった」が12.3%、「天ぷら油から煙または火があがり、火災になりそうになった」が7.9%となっている。

サンプル数 (%)	調理中に火の元を離れ、火災になりそうになった	天ぷら油から煙または火があがり、火災になりそうになった	ストーブが異常に燃焼し、火災になりそうになった	灰皿から煙または火があがり、火災になりそうになった	コンセントから煙または火があがり、火災になりそうになった	その他	無回答	
全体	5,018	12.3	7.9	6.5	4.9	2.6	11.9	59.3
《性別》								
男性	1,933	10.6	7.0	8.2	8.8	2.6	13.0	55.5
女性	3,054	13.4	8.4	5.5	2.5	2.5	11.2	61.7
《年代別》								
20歳～29歳	506	11.1	6.3	4.7	7.1	4.7	13.8	57.5
30歳～39歳	824	10.0	7.2	4.2	7.2	2.7	13.5	59.3
40歳～49歳	899	13.3	8.0	5.5	6.7	1.4	12.1	58.5
50歳～59歳	1,077	15.3	10.1	7.7	4.4	2.6	11.4	55.0
60歳～69歳	963	12.9	8.3	10.4	3.3	2.4	11.1	57.6
70歳以上	735	9.1	6.0	4.9	1.9	2.3	10.1	69.9

対象者全体スコアと比較し10%以上高い

対象者全体スコアと比較し10%以上低い

【性別】男女共に「調理中に火の元から離れ、火災になりそうになった」の値が最も高く、男性10.6%、女性13.4%で女性の方が男性より2.8ポイント高くなっている。次に高い値となっているのは、男性では「灰皿から煙または火があがり、火災になりそうになった」8.8%、女性は「天ぷら油から煙または火があがり、火災になりそうになった」8.4%である。

【年代別】「調理中に火の元を離れ、火災になりそうになった」の値が高い年代順に、50代(15.3%)、40代(13.3%)、60代(12.9%)、20代(11.1%)、30代(10.0%)、70歳以上(9.1%)となっている。値が最も高い50代(15.3%)と最も低い70歳以上(9.1%)で6.2ポイントの差となっている。

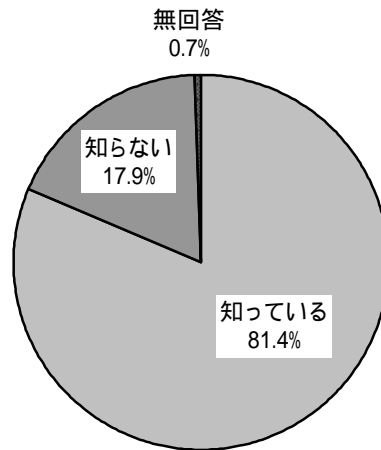
暮らしに潜む火災の危険性と住宅用火災警報器について

住宅用火災警報器の設置義務化の認知度

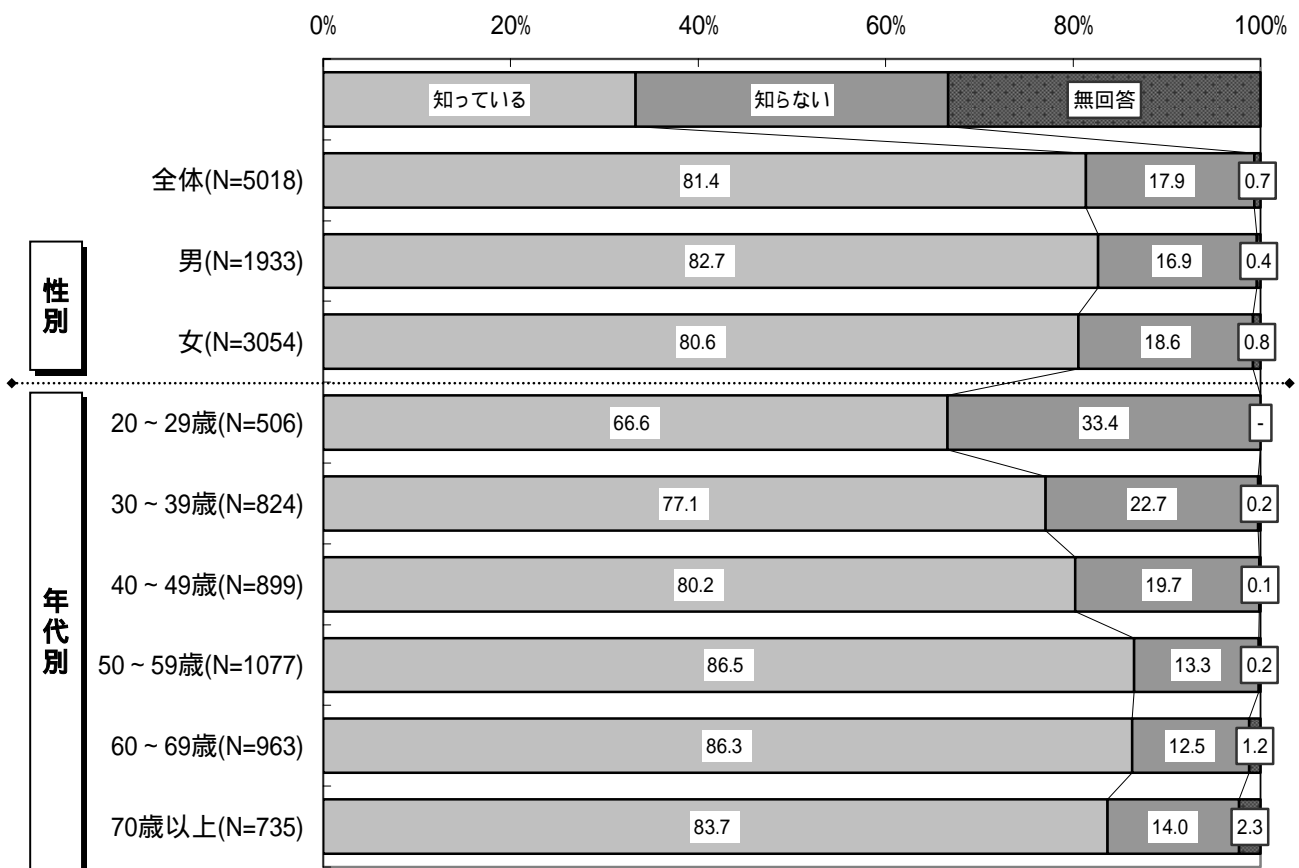
問6 あなたは、一般住宅に対して、火災の早期発見に有効な住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことを知っていますか。

住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことを、「知っている」が8割強。

全体(N=5018)



【対象者全体】一般住宅に対して、火災の早期発見に有効な住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことを、「知っている」が81.4%、「知らない」が17.9%となっている。



【性別】「知っている」の値は、男性82.7%、女性80.6%で男性の方が女性より2.1ポイント高くなっている。

【年代別】「知っている」の値が高い年代順に、50代(86.5%)、60代(86.3%)、70歳以上(83.7%)、40代(80.2%)、30代(77.1%)、20代(66.6%)となっている。値が最も高い50代(86.5%)と最も低い20代(66.6%)で19.9ポイントの差となっている。

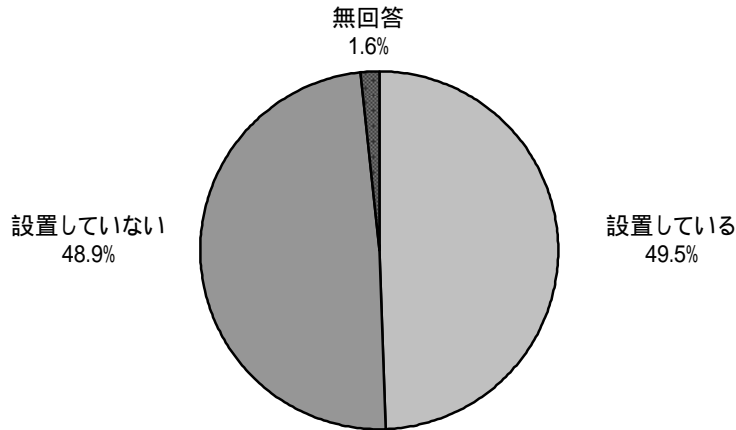
暮らしに潜む火災の危険性と住宅用火災警報器について

住宅用火災警報器の設置の有無

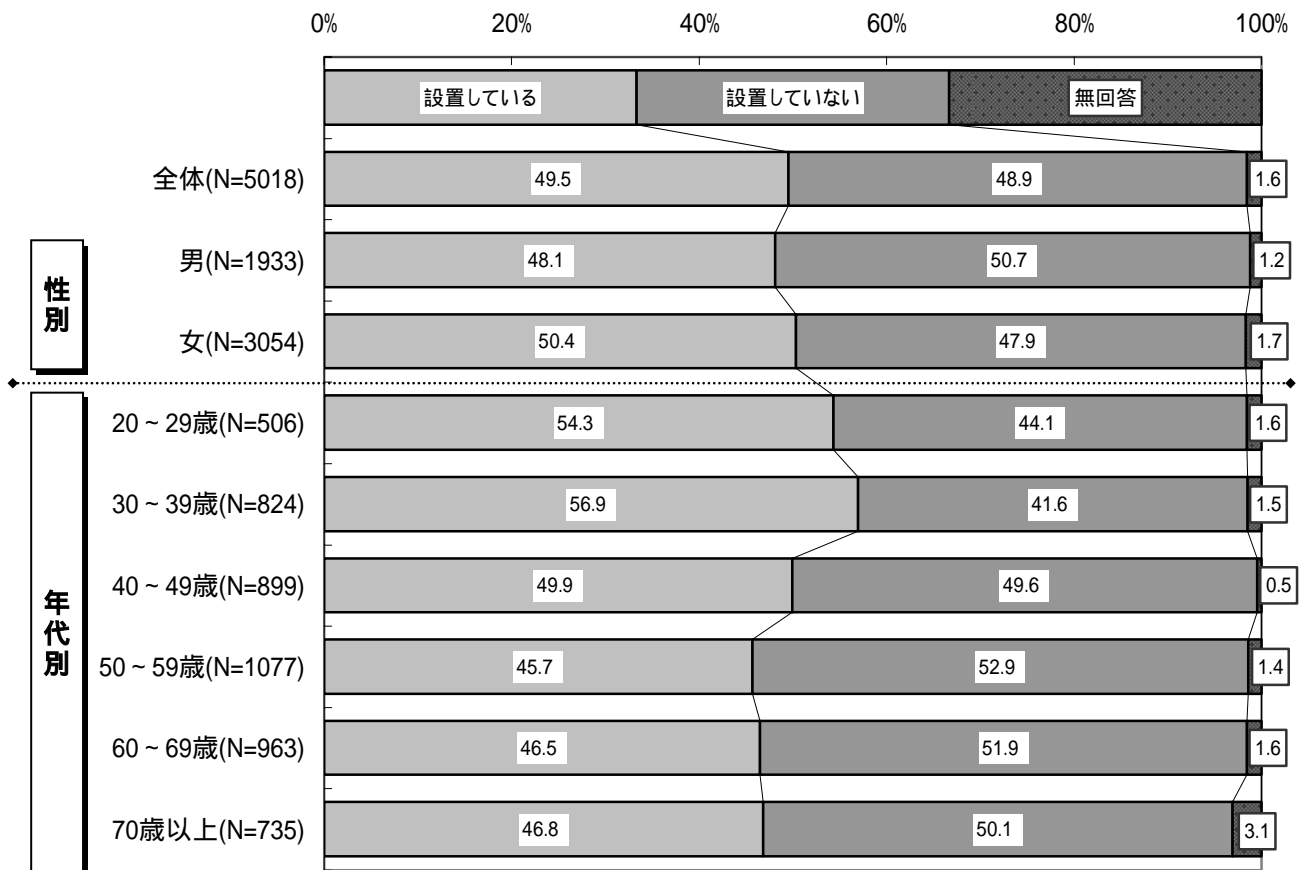
問7 あなたは、自宅に住宅用火災警報器を設置していますか。

自宅に住宅用火災警報器を、「設置している」が約5割。

全体(N=5018)



【対象者全体】自宅に住宅用火災警報器を、「設置している」が49.5%、「設置していない」が48.9%となっている。



【性別】「設置している」の値は、男性48.1%、女性50.4%で女性の方が男性より2.3ポイント高くなっている。

【年代別】「設置している」の値が高い年代順に、30代(56.9%)、20代(54.3%)、40代(49.9%)、70歳以上(46.8%)、60代(46.5%)、50代(45.7%)となっている。値が最も高い30代(56.9%)と最も低い50代(45.7%)で11.2ポイントの差となっている。

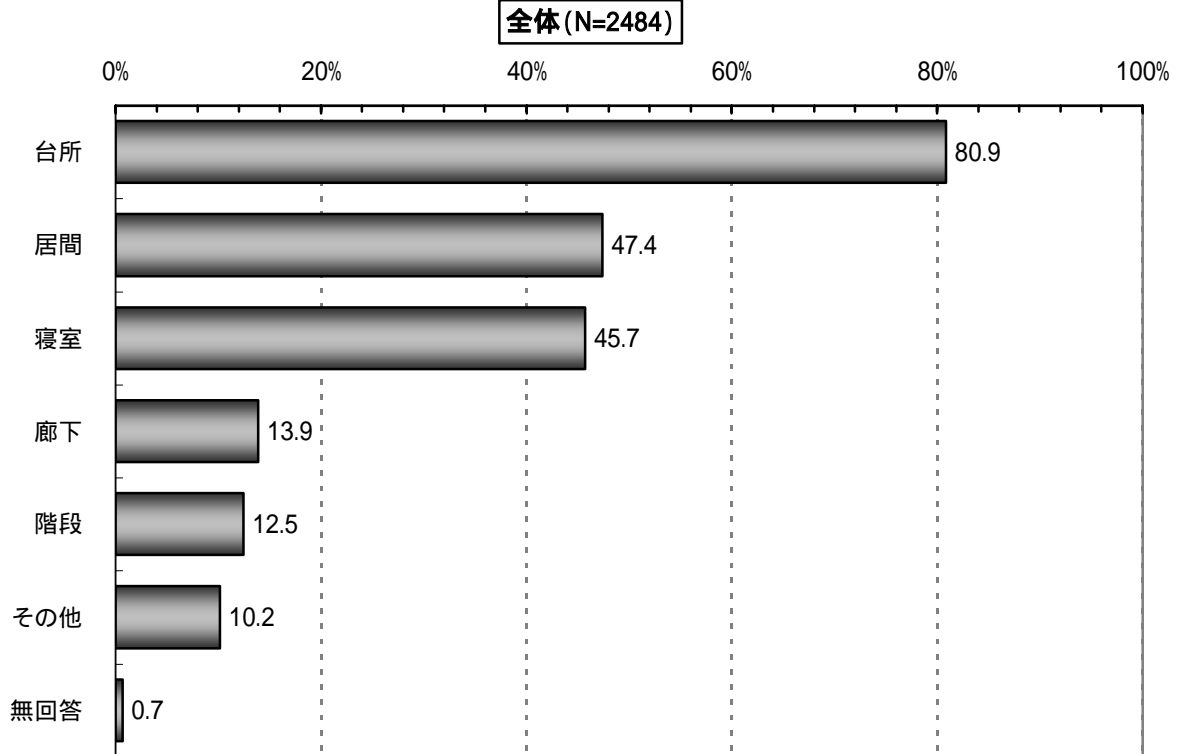
暮らしに潜む火災の危険性と住宅用火災警報器について

住宅用火災警報器の設置場所

問7で「1 設置している」と答えた方にお聞きします。

問7-1 あなたは、自宅のどの場所に住宅用火災警報器を設置していますか。あてはまるものにいくつでもをつけてください。

住宅用火災警報器を設置している場所は、「台所」が約8割。



【対象者全体】自宅のどの場所に住宅用火災警報器を設置しているかについては、「台所」が80.9%、次いで「居間」が47.4%、「寝室」が45.7%となっている。

	サンプル数	台所	居間	寝室	廊下	階段	その他	無回答
(%)								
全体	2,484	80.9	47.4	45.7	13.9	12.5	10.2	0.7
《性別》								
男性	930	80.9	48.2	46.5	13.8	15.4	10.2	0.4
女性	1,538	81.0	47.3	45.5	13.8	10.6	10.2	0.8
《年代別》								
20歳～29歳	275	78.2	50.5	44.0	12.7	5.8	11.6	0.4
30歳～39歳	469	80.4	55.9	56.3	14.1	10.2	11.1	1.3
40歳～49歳	449	81.5	47.4	47.9	12.0	10.5	11.1	0.4
50歳～59歳	492	81.9	47.8	43.5	14.0	12.2	8.3	0.4
60歳～69歳	448	81.7	42.0	42.9	12.7	14.3	11.8	0.9
70歳以上	341	80.2	39.8	37.5	18.3	21.2	7.0	0.6

■ 対象者全体スコアと比較し10%以上高い

■ 対象者全体スコアと比較し10%以上低い

【性別】男女共に最も高い値は「台所」で、男性80.9%、女性81.0%で男女差はみられない。次いで、「居間」の値が、男性48.2%、女性47.3%、「寝室」の値が、男性46.5%、女性45.5%と、共に男女差はほとんどみられない。

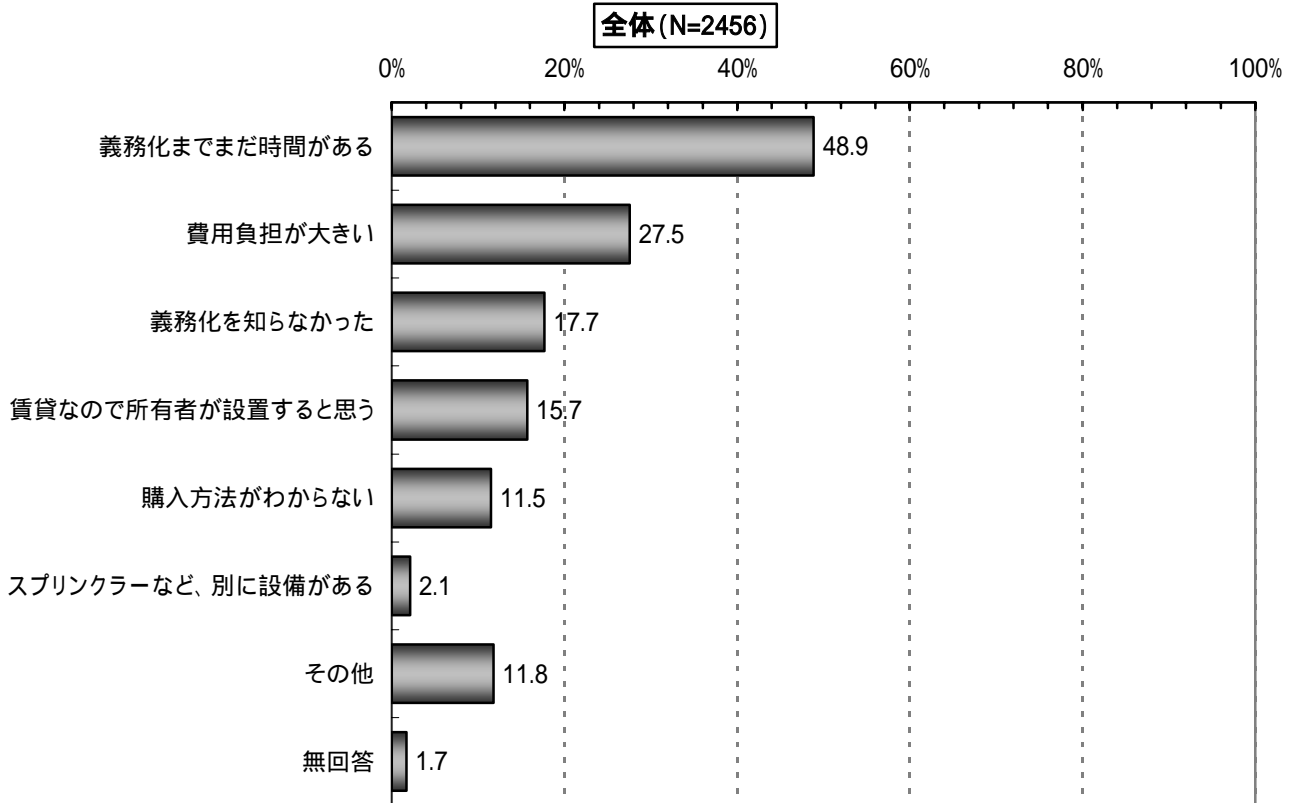
【年代別】各年代で「台所」の値が最も高くなっている。値が高い年代順に、50代(81.9%)、60代(81.7%)、40代(81.5%)、30代(80.4%)、70歳以上(80.2%)、20代(78.2%)となっている。値が最も高い50代(81.9%)と最も低い20代(78.2%)で3.7ポイントの差となっている。

暮らしに潜む火災の危険性と住宅用火災警報器について

住宅用火災警報器を設置していない理由

問7で「2 設置していない」と答えた方にお聞きします。
問7-2 設置していないのはなぜですか。あてはまるものにいくつでも をつけてください。

住宅用火災警報器を設置していない理由は、「義務化までまだ時間がある」が5割弱。



【対象者全体】住宅用火災警報器を設置していない理由は、「義務化までまだ時間がある」が48.9%と最も高くなっている。次いで「費用負担が大きい」が27.5%、一方、「義務化を知らなかった」が17.7%となっている。

	サンプル数	義務化までまだ時間がある (%)	費用負担が大きい (%)	義務化を知らなかった (%)	賃貸なので所有者が設置すると思う (%)	購入方法がわからない (%)	別に設備がある (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	2,456	48.9	27.5	17.7	15.7	11.5	2.1	11.8	1.7
《性別》									
男性	979	51.5	28.3	17.9	14.6	10.3	1.7	13.3	0.9
女性	1,464	47.1	27.2	17.6	16.4	12.3	2.4	10.9	2.2
《年代別》									
20歳～29歳	223	30.0	23.8	30.5	28.7	13.9	3.1	11.7	1.8
30歳～39歳	343	34.7	27.4	19.8	31.8	11.4	4.7	9.3	0.9
40歳～49歳	446	46.4	31.2	18.6	14.3	14.8	2.5	10.5	1.1
50歳～59歳	570	56.8	25.3	13.5	13.0	8.9	1.1	12.6	1.2
60歳～69歳	500	57.4	29.6	12.8	10.0	9.2	0.8	13.8	1.4
70歳以上	368	52.7	26.1	19.8	6.8	13.0	2.2	11.7	4.1

■ 対象者全体スコアと比較し10%以上高い ■ 対象者全体スコアと比較し10%以上低い

【性別】男女共に「義務化までまだ時間がある」の値が最も高く、男性51.5%、女性47.1%で男性の方が女性より4.4ポイント高くなっている。次いで「費用負担額が大きい」の値が、男性28.3%、女性27.2%と男女差はほとんどみられない。一方、「義務化を知らなかった」の値は、男性17.9%、女性17.6%で男女差はみられない。

【年代別】年代別で見ると、20代以外では「義務化までまだ時間がある」の値が最も高くなっている。値が高い年代順に、60代(57.4%)、50代(56.8%)、70歳以上(52.7%)、40代(46.4%)、30代(34.7%)、20代(30.0%)となっている。値が最も高い60代(57.4%)と最も低い20代(30.0%)で27.4ポイントの差になっている。一方、20代において最も高い値は「義務化を知らなかった」が30.5%で、他の年代に比べ高くなっている。